



2022年8月23日

みやざき健康街づくり構想：目指せ！健康寿命日本一 国立大学運営費交付金による宮崎大学医・工・農学部連携プロジェクトが始動します

この度宮崎大学において、文部科学省による「第4期中期目標期間(令和4年度～令和9年度)における国立大学法人運営費交付金」を用いた事業として、教育・研究など様々な分野における計10件の事業計画が立てられました。その一つとして「宮崎県の健康寿命日本一」を目標に掲げる異分野融合プロジェクトを開始いたしますのでお知らせします。医学部を中心とした宮崎大学の学部間連携で総力を挙げ、県民の健康増進に向けた活動を展開します。

我が国の平均寿命は飛躍的に伸びましたが、平均寿命と健康寿命の間に約10年の差があり、亡くなるまでの10年間に介護を要しているケースが多いことがわかります。介護が必要になる理由のトップは認知症ですが、脳卒中や心筋梗塞等の循環器疾患は合わせて20.6%、関節疾患・骨折・転倒・脊椎損傷などの運動器疾患は24.6%と、循環器・運動器で全体の約半数を占めており、かつこれらの疾患が認知症の発症に関わることから、健康寿命の延伸には、循環器・運動器の機能維持の観点から取り組むことが重要であると言えます。

本学は、2007年度に設置した[農学工学総合研究科博士後期課程](#)をはじめ、日本で初めてとなる医学と獣医学が融合した[医学獣医学総合研究科\(博士課程\)](#)をいち早く設置するなど、異分野融合型の研究体制や強固な産学官連携体制の土台を築いてきました。

宮崎県総合計画「[未来みやざき創造プラン](#)」においては、「目指せ！健康長寿日本一」がスローガンに掲げられ、令和元年度には、女性の健康寿命は全国3位と、取り組みの成果が見られます。一方で、喫煙率や肥満率、心臓病の死亡率が全国平均より高く、また検診受診率が低いという問題点を抱えており、健康寿命延伸のためにはより一層の専門的なアプローチが必要と考えられます。宮崎大学では、県や市町村などの自治体や医師会とも連携しながら、6年間の本プロジェクトを通じて地域社会全体を支えていく「地域共生社会の宮崎モデル」構築を目指していきます。

我が国は、世界に先駆けて超高齢化社会を経験しています。本プロジェクトを通し、地域社会および国際社会に貢献できる事業を進めてまいりますので、取材についてご検討いただければ幸いです。

① 発信元

企画総務部総務広報課広報係(後田・廣谷)

TEL：0985-58-7114

② プロジェクトに係る問い合わせ先

宮崎大学健康街づくり構想オフィス(医学部機能制御学講座循環動態生理学分野内)

TEL：0985-85-1785

e-mail: genki_project@med.miyazaki-u.ac.jp

【プロジェクト概要】

プロジェクト名：分野横断体制でとりくむ循環・運動器疾患の克服による健康寿命の延伸

研究代表者：[渡邊 望](#)（医学部機能制御学講座循環動態生理学分野教授）

研究開発期間：令和4年度～令和9年度

配分予定額：約1億6千万円（6年間の暫定額：事業内容による変動あり）

【ポイント】

- ① 宮崎県が掲げるスローガン「目指せ、健康長寿日本一の宮崎県」を、宮崎大学が医学・工学・農学連携で全学的にバックアップするプロジェクト。
- ② プロジェクトの中心となるのは宮崎大学医学部の循環器ユニット。代表者の渡邊教授の他、薬理学[武谷立](#)教授、生化学[西山功一](#)教授、循環器内科[海北幸一](#)教授、心臓血管外科[古川貢之](#)教授ら基礎医学から臨床医学までの心臓血管病のスペシャリストが揃う。宮崎大学医学部ならではの布陣で、宮崎県民の健康寿命延伸を学術・医療両面から底上げする。
- ③ 循環器ユニットでは、文部科学省国費外国人留学生優先配置プロジェクト（令和4年度～9年度）も採択され、令和4年度秋から5年間で21人の優秀な外国人留学生を本学医学獣医学研究科博士課程に迎え研究を進める事業を手掛けており、今回のプロジェクトによる事業が同時に展開されることで、研究面、臨床面双方での社会的インパクトを生み出すことが期待される。
- ④ 本プロジェクトの特徴は、心血管疾患に関する様々な領域のエキスパートと、既に宮崎大学発の事業として県民に広く貢献している「ロコモザワールド宮崎構想」とのコラボレーションである。整形外科の[帖佐悦男](#)教授がこれまで推し進めてきた身体機能の向上による健康寿命への貢献に加え、介護原因の大きな割合を占める心臓血管病の予防と、急性期から慢性期リハビリまでの専門的かつ包括的な管理をコラボレーション事業として進めることにより、身体機能と心肺機能両面での健康を底上げする。
- ⑤ 整形外科と工学部との連携で開発されてきたリハビリロボットに、循環器チームの連携により心臓病・血管病の専門的モニタリング機能を加え、新たな診断・リハビリロボットとして機能を高めるための開発を促進する。
- ⑥ 宮崎県は、全国平均と比べ喫煙率・飲酒率・メタボ・肥満の率が高く、歩数が少ないことがデータからわかっている。にもかかわらず、特定検診受診率は49%と全国平均を大きく下回る。心臓病の年齢調整死亡率も男女ともに全国平均を大きく上回っており、県民の健康増進のためには、子どもを含むファミリー単位での教育が不可欠である。既存の健康教室は主に高齢者を対象としているのに対し、本プロジェクトでは、県や市の教育委員会ともタイアップし、子どもから高齢者までを対象としたプロジェクト展開を計画している。
- ⑦ 宮崎大学を中心としたスペシャリストで編成される「みやざき健康キャラバン隊」が、県内の小中学校や、自治体、メディアと共同で様々な啓発・教育のためのイベントを繰り広げ、子どもから高齢者まで幅広い年代に向けた活動を展開する。

【参考】

▼ 宮崎大学医学部附属病院ハートセンター

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/hospital/departments/heart-center/>

▼ 楽しみながら「ロコモ」を予防・改善する新感覚ロボットシステム「LOCOBOT®（ロコボット）」の臨床研究を開始します（2021/7/15）

http://www.miyazaki-u.ac.jp/public-relations/20210715_04_press.pdf